

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370106332 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 岡山中央福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム さっちゃん家 | | |
| 所在地 | 岡山市東区金田819 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月20日 | 評価結果市町村受理日 | |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370106332&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート | | |
| 所在地 | 岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年2月1日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活リズムに合わせて画一的でないケアを心掛けている。(不眠のひとの起床時間や食事時間の配慮) 家族と地域と職員と連携しての利用者支援を行っている。(面会や地域の方の訪問が多い)地域の方の協力が大きく、町内会に入り行事に参加している。他のホームで入居を断られたひとの入居を受け入れている。何より入居者の方と職員が元気である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人間同士が心良くお付き合いする条件として、私は「自分あるいは相手の人間としての本質を知る」と「対等と平等の立場を保つ」と言うことだと考えている。特に認知症の人と普通の人(介護する人)の間でもその気持と態度は必要だと思っている。認知症の人が怒ったり、暴れたりする原因はこのバランスが崩れた時が多い。そこで一番重要な事は、利用者と介護職員のコミュニケーションの仕方と関わりの姿勢だろうと思う。このグループホームは個々の生活重視で、それぞれの人の本質を理解して、その人のペースでゆったりと過している。そして利用者や家族の本当の気持を掘り下げて知ろうと昨年度の目標計画から“気づきシート”を作り、職員が気付いたことを先ず記録している。これは表面から見えないところを推察していこうと、職員の感性度を高めていこうとしている。是非有益な手法として発展してもらいたいと期待している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で理念をたて、日常ケアについて意見の統一をしている。 | “その人らしく生活する”という意味が利用者の生活している様子からも、職員が利用者にかかわっている行動を見ても、職員の利用者や家族と接する心構えを聞いても、ホームのマネジメントからも良く伝わってきた。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会の一員として地域や公民館行事に参加しており、地域の人からホームへの日常支援や助言をしてもらっている。 | この前にホームで実施した“年末の餅つき”“どんど祭り”等は地域の人や友の会の人達が協力すると言うより、ホームのために自ら実施していると言う感じ。餅つきで出来た餅も共の会で販売してくれ、ホームの運営資金に充足してくれる。近くの保育園児も集まってくる。地域あつてのホームと言っても過言ではない。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 中学生職場体験の受け入れや、地域の方々から認知症の相談も受けている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 前回の会議での検討事項などについて、その経過を報告し積み上げている。内容についても報告し意見を貰うようにしている。 (21・目標計画達成) | 運営推進会議を見学させてもらった。先ず参加してくれる委員とホーム側の理事長や施設長の表情が開催前から明るく家族的な関係を思わせる。報告に対しても、活動への助言にしても、皆自分の事のように思い、発言し合っている様子は信頼関係が作った絆だと思った。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加してもらいホームでのケア実践や地域連携の取り組みを伝えている。 | 運営推進会議にも岡山市介護保険課もホームの熱意に押され積極的に参加している。市の方からも発言もあるが、このホームのしている事を知ろうとしている事が嬉しく思った。相談や指導を積極的に受けられそうだ。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 会議で学習し職員全員が周知し取り組んでいる。 | 前年度に改装した結果、極端な段差もなくなり、利用者も歩きやすくなったが、利用者の方もこの1年を見ても身体的機能の落ちてきた人が目立ち、転倒してしまう人も増えていた。そこを歩き廻る人も居て、職員は付き切りで一生懸命支援している姿を見た。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止の勉強会を実施し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 地域包括サブセンターと連携し成年後見に繋げたケースがあり今後も活用・支援したい。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 時間をとって丁寧に説明している。金額のこと、事業所のケアに関する考え方取り組みなど納得を得られるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や家族会を通して要望を出しやすいようにしたい。担当職員を定め出しやすい環境に努めている。 | 家族と面会したり、電話で話した事を記した連絡ノートがあり、本人や家族との会話の記録が克明に書かれており、家族の心情も読み取れる記述もあった。家族には月に1回、担当者からたよりを送って、利用者の様子を知らせている。こんな中から家族の気持を呑み取っている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務、ケア改善提案書を活用したり、職場会議等で意見交換している。 | 「業務・ケア改善提案書」があり、職員が業務、利用者との関わり方等色々な観点から改善したい事を提案する。その提案書を他の職員が見て、意見を加筆して改善案に深みを付けている。そして採否とその具体的内容を決定して、運営への大きな反映が実現できている。 | グル-プホームの職員は、マニュアルとか規程等文章で書かれた事より一人ひとりが自分の頭で考える寄り添いや関わりが大切だと皆さん良く分かっていると思うが、職員一人ひとりで確認した現場の情報を使う事も必要かと思う。 |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 労働組合との交渉や、規定が定められており資格手当や常勤試験も設けられている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人の教育委員会において、全体学習会や発表会などでの研修の場があり、職場内外の研修に参加している。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 上南施設連絡協議会などで、交流し質の向上に努めており、同業者の集会にも参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 訪問をし家族や関係者からアセスメントを行い、入居後は、密な関わりを全員でもち、寄り添いながらゆっくり声かけし本人の思いを受け止めながら、安心してもらえるよう努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 今まであった事などしっかり話して頂き、思いを受け止めている。又、入居後の様子を伝えるようにしている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | インフォーマル的なサービスに対応し努めている。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事など出来る事を職員と一緒にしたり、行事・しきたりなど利用者から教えてもらうことも多い。 | | |
| 19 | | 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の日頃の出来事、生活の様子等面会時に話あったり、月に一度手紙に書き伝え、誕生日の祝い方などを家族と一緒に相談している。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行事をする事で地域の方などと馴染みになり、時々ホーム内でお茶を飲み話し等して楽しんでもらっている。馴染みの美容院を今でも利用される人もいます。 | このホームに入所してから利用者同士で早く仲良くなれるかを工夫している。ソファやテーブル、小さいコーナー等を活用して、それぞれの人の性格や気質を考えて職員も中に入って友達をつくっている。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 話をしたり穏やかに過ごせるように場所等に気を配りトラブルなど生じないよう見守るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も手紙のやり取りや近くの家の方の訪問をすることがある。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 御本人の思いや苦しみ、不安を知ることにも努め、本人のリズムの生活に近付けている。 (21・目標計画達成) | 利用者の心の中を把握する事が、介護の真髄である。21・目標達成計画で「気付きシート」をつくり、職員が利用者の言葉や動作から気付いた思いをシートに記入しておき、カンファレンスに活かせるように改善した。 | 前回の提案で“気づきノート”を作り、利用者との関わりの中で利用者から受けた言葉や仕草等から気持や苦しみを知る情報を大切にしている。これからは是非毎日の積み重ねをして効果を高めていって欲しい。 |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面会時などに家族から生活歴や様々なエピソードをきかせてもらっている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活リズムを理解すると共に出来ること、出来ないことに注目し、全体像の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現状を伝えながら本人の言葉や行動を把握し職員間でのアセスメント、家族との連絡に繋げている。 | 個別ケア記録は介護計画を作る為の重要な情報源である。この記録の仕方として、記録を書く担当を決めていたが、改善提案により、利用者に対応した職員の本人が記入した方が適切な記録ができるようになった。利用者の“今”を知る為にはリアルな記録を1ヶ月分までまとめ、カンファレンスに活かしている。 | 毎日の記録している個別ケアの一つひとつが積み重なって、利用者の喜びや楽しみと言う気持の面も表出してくれると思うので、重要な個人の情報の質を高めていってほしい。 |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 気付きシートを作成し、利用者それぞれの気づきをカンファレンスで共有している。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個別のニーズに対応し、ご家族とご相談の上プラン作成し、支援を行っている。地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等との連携図っている。(成年後見制度・生活保護・入退去の支援) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域への祭り、運動会、敬老会など行事に参加し、地域の一員として生活が出来る支援を心がけている。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医とご家族との間の連絡をスムーズに行い対応を心掛けている。受診が必要な場合は、職員家族と連携し対応を行う。 | 提携医の診療所は24時間対応してくれるので利用者にとって心強い。入所する時かかりつけ医からこの先生に変更する利用者も居る。2週間に1回往診してくれるので、重症化してくると尚更心強いと思う。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携にて訪問看護ステーションから一週間に1回看護師が健康管理を行う。緊急時の対応を相談可能。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入退院の対応は、事前にサマリーを作成し、説明の上支援を行う。入院中は、病院等と情報交換を行い受け入れに向け体制を整える。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 認知症の進行に伴い、周囲への影響など考慮の上で、関係者と共にカンファレンスを行う。その上で、今後の方針を決定して行く。看取り・重度化については、主治医などを中心に話し合いを行いご家族に理解を求めていく。 | 施設長と計画作成担当者共に利用者がいつまでも一緒に生活出来る事を望んでいるが、家族には本人の精神・身体機能状態を正確に伝え、生活能力はこんな状態だと言う事を詳しく説明し、本人の状況を家族と共有出来るようにしている。家族の認めたくない部分も理解してもらい、今後の生活や支援方法等を医師も含めて話し合っていくようにしている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当の研修や緊急時の対応の周知を図っている。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日頃から近隣の方と関係を密にし、避難訓練等参加して頂く。 | スプリンクラー設備の設置が完了した。火災に対しては安心であるが、これからは地震等の災害も予期しておかねばならず、避難訓練は大切である。地域の人達の協力は得られているが、消防団も含めて運営推進会議でも話し合っていくであろう。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレ誘導時や入浴時は、必ずパットや紙パンツ等を隠してフローアを歩き、利用者に分からないように配慮する。又、失禁時には、傷つけない配慮を行っている。 | 布おむつの洗濯や干場の対応、下着の洗濯物の扱い等個人の物の扱いをしっかりとしようと改善提案があり、洗濯物のカゴを各居室に置くようになった。トイレや脱衣場での職員の声掛けや態度も慎重にするよう気を付けている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食べたい食事を尋ねたり、着替えを自分で選んでもらったりしている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 歩きたい利用者になるべく付添うようにしている。テレビを見たい人、料理がしたい人、塗り絵がしたい人など、その人らしく、楽しく暮らして頂くようにしている。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時、入浴時など着替えの衣服を選んでいただく。出来ない利用者には、同じ衣服に偏らないように配慮する。アクセサリをつけたり、散髪の意向を尋ねたりしている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食べたい物を聞いたり偏食のある人の好みの物を出来るだけ出すなど楽しく食事が出来るよう援助している。又、食欲のない人には、好みの献立の調理に加わってもらっている。 | 以前は食材の買物に出掛けたり、調理の下拵を手伝っている利用者も居たが、今ではもう出来なくなってしまった。それでも稲荷寿司の味付けにすし飯の詰めを女性陣に頑張ってもらって、うどん定食を楽しく食べた。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養状態を考慮しつつ、カロリーメイトなどで調整を行う。嗜好に合わせ、飲み物など提供している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 拒否のある人は、無理強いせずに夜間には、義歯の手入れを行う。状態により口腔内のガーゼ清拭を行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者の様子を見ながら身体機能に応じて歩行介助をしている。紙パンツ・パット類も本人に合わせている。記録等により時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるようにしている。行動などから察知する。 | トイレ誘導は全員であるが、便座に座れる人は便器で排泄する事を基本としている。以前はトイレに行って排泄できるよう機能訓練という趣旨でケアしていたが、重症化もしているため、自然に排泄できるチャンスに期待している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄日を記録し水分補給の徹底をおこなっている腸の働きを良くするために散歩などもしている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 服を脱ぐことを嫌がる利用者には、声掛けしながら安心感を持ってもらう。身体の状態に合わせて、声掛けしたり、体調に沿った入浴を進めている。 | 本人の希望に合わせて入浴している。入らない時があると、次にはその人を優先して入浴してもらう。週3回は入浴してもらうようにしている。洗髪を拒否する位の元気を喜んでいたが、素直になると弱くなったなあと思うのが悩みの一つでもある。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、希望等を考慮してゆっくり午睡がとれるようにしている。寝つけない利用者には添い寝をしたりおしゃべりをしたりしている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬時は、必ず職員が個人名の書かれているケースより取り出し確認後すぐに服薬してもらっている。薬の処方や容量が変更された場合は、全ての職員が把握できるようにし、本人の状態変化が見られる時は、看護師や医療機関との連携を図るように努めている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願い出来るような役割を頼み感謝の言葉で労いの言葉を伝える。外出や地域行事の参加等の楽しみごとをしている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて喫茶店に行ったり、外食、お弁当を持って、戸外に出かける等をしている。 | 年々高齢化や重症化してきた人が目立ってきた。一人ひとりの状況を見て散歩したり、外食や喫茶店に個々に行くケースが多くなった。気候が良くなれば、屋外に広い庭もあり、行事に参加や外気に当たるのも良い。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望や力に応じてお金を所持され職員と一緒に買物に行き、お菓子や果物等を自ら買物をされる支援をしている。レシートは本人が所持され品物・金額は記録に残している。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 訴えがあればいつでもできるよう支援している。宅配便が送られてきた時は必ず電話連絡をし、手紙の返事を書かれない時は、電話連絡をして支援している。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者と一緒に季節に合った絵や貼り絵を作って飾ったり花を飾っている。室温や雑音・邪魔な物がないよう、安全に居心地よく過ごせるよう気をつけている。 | 玄関を入ると広い玄関ホールがあり、皆で作った七福神の乗る宝船の作品が貼ってある。リビングルームには大きな羽子板を作って吊ってあった。まだ正月のなごりを残していた。女性陣4人と職員・家族が加わって百人一首のカルタ取りをしていた。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子の配置を考え、独りになれたり気のあった利用者同志で過ごせるような工夫をしている。ほぼ、自分の居場所が決まっているように見える。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 定期的に居室内、タンス内の整理をし、本人の好みに合った居室作りをしている。又、家族の方が本人と相談しながら着替えや居室の配置替えをされる方もいる。 | それぞれの個室がその人らしく生きられる場所でもある。寝れない時は次の日は寝ただけ寝られる。身体の調子が悪くない限り無理矢理に起こすことはない。その人の体力や運動機能に応じて床に布団を敷いて寝ている。安全第一である。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 設置できる箇所へは手すりをつけ、車椅子に座り続けられない生活の援助をしている。 | | |